

F₁ パンジー レイン・シリーズ Rain series, Pansy

きれいに広がるバスケットパンジー。抜群の耐寒性をもっています

- レイン・シリーズは、優れた秋咲の特性を有し、さらに強い耐寒性をもって越冬し、適切にケアされていればマイナス40℃の土地であっても冬を越し、翌春の早い時期にまた花を咲かせます
- 早春には、レイン・シリーズはほかの市場によく流通している品種よりも2週から4週早く返り咲きます(フロスティ・レインは、パープルよりも開花が5-7日晩生の品種です)
- ピオラよりもちょうどひと回り大きなサイズ(約4cm)の、パンジーの中では斬新な風貌をもった品種です
- 分枝に優れた多花性な性質を有し、生育も旺盛で株張りも直径25-30cmに達します。春先にレイン・シリーズを用いれば、大きな花壇であっても短期間のうちに花でいっぱいなることをお約束します
- レイン・シリーズの分枝のよさには定評があり、そこに多くの花が付き、花壇ではシーズンを通して長く咲き続けます
- レイン・シリーズのバスケットパンジーにピッタリの品種で、その独特のカスケード状の草姿に店頭では目を引きます

本品種の学名: *Viola x wittrockiana*
種子粒数: 約765粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイ・サイズ

288穴トレイを使用。プラグ育苗の期間は約5週

培地

水はけがよい、新しいピート主体の培地を用いましょう。土壌pHを5.4から5.8とします。あまり初期養分(元肥)の高いメディアミックスの使用は避けましょう。育苗段階での徒長を防ぐために、できるだけリン酸成分を少なくします

播種

播種したら、種子の周りの湿度を高く保ち発芽しやすいように、粗めのバーミキュライトで覆土します。発芽には3、4日かかります

最適な発芽パフォーマンスを実現するため、培地の水分なるべく高め(Wet)に維持します。これは培地の表面がぬれて光るくらい状態で、水がトレイの底から浸みない程度、つまり指先で少し表面を触れて満遍なく浸透している状態が確認できれば適量です。苗の徒長を防ぐため、育苗温度が21℃を超えないように注意します

ステージ2の期間:	約10日
ステージ3の期間:	約14日
ステージ4の期間:	約7日

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 PanAmSeed.com

温度

発芽温度: 20℃

ステージ2: 昼間18-21℃、夜間15℃

ステージ3: 昼間18℃、夜間15℃

ステージ4: 昼間15℃、夜間13℃

水やり

ステージ3から開始し、苗がしっかりと活着したら培地の水分レベルを下げましょう。ステージ4では、いわゆるウェット/ドライの周期を繰り返し、過湿によって苗が軟化しないように注意します

照度

発芽ステージでは、電照等による補光は不要です。3,000ルクス(30,000f.c.)を上限として十分な光条件を整えることで質の高い苗ができていきます

湿度

相対湿度95から97%を維持します

肥料

ステージ3から開始し、週2回、育苗にに適した汎用タイプの液肥を50ppm(N値)で与え、1週間には窒素濃度を100ppmまで増加させ、育苗終了までこの濃度で施肥を維持します。最初のEC値¹は0.5-0.75mmhos/cm、pHは5.4-5.8から始まり、ステージ2から4では、各々EC値は1.0mmhos/cm、pHは5.6-5.8とします

また、pHが6.0以上になるとホウ素欠乏を引き起こし、生理障害から *Thielaviopsis sp.*による黒根病を誘発する場合があります

矮化処理剤(PGR)

レイン・シリーズの苗は、他のタイプのパンジーと比べよりコンパクトで横張りする傾向があるので、プラグ生産の段階では矮化剤は概ね不要と考えられます。必要な場合は、Aレストを10ppm葉面散布すると効果があります。最初の本葉が展開した時点(播種後だいたい3週齢程度)で1度与えれば十分な効果があります。徒長が生じつつある場合は、に達する数日前から与えることも可能です

Note: プラグ苗の移植適期を逃さないように注意しましょう。移植が遅れると根詰まりを起こして、プラグトレイで花をつけてしまうことがあります

ポット上げから出荷まで

コンテナサイズ

造園関係需要: 9-10.5cm ポット

園芸店用一般小売需要: 9-10.5cm ポット、または大鉢やハンギングバスケットなど

培地(用土)

培地については初期養分値(元肥)が重要で、その後の生育や仕上がりの質や株姿に大きく影響を及ぼします。用量が低すぎると、株が十分にでき上がる前に花が上がってしまうことがあります。そのため、培地の初期養分の用量が不足と判断できる場合は、栄養生長を促すために必要な栄養分を確保しましょう

温度

施設栽培では、昼間温度が 15-18℃、夜間温度が 10-13℃が生育適温です

照度

補光等は不要です

肥料

ポット上げ後、1 週を経過して根が活着した頃から、汎用タイプの液肥を 150ppm(N 値)で週 1 回、与え始めます。露地生産の場合は、必要に応じて施肥を追加しましょう。ポット上げ後は出荷するまで、EC 値^{*1}は 1.5mmhos/cm、pH は 5.6-5.8 を保ちます。pH が 6.0 を超えるような場合は、pH レベルを適正域に下げることの方策をとりましょう

矮化处理剤(PGR)

矮化剤の必要性は、生産の時期や場所、昼夜の温度差によってその要件が大きく変わってきます。もし昼夜の温度差が適正な条件内であれば(例えば、昼間温度が 16-20℃、夜間温度 11-15℃の範囲内)、移植後 1 週たってから A レストを 10-20ppm で 7-10 日の間隔で 2、3 回散布すれば効果が現れるでしょう。これよりも温度の高い条件では、B ナイン 5,000ppm とサイコセル 1,000ppm のタンクミックス(あるいは B ナイン 5,000ppm とサイコセルの代わりに A レスト 10ppm)を移植後 1 週目に、上記を同回数、同間隔で散布すれば効果があります

NOTE: 矮化剤の使用については、用いられるコンテナのサイズや形態によって、使用するタイミングや頻度を調節しなければなりません

温度は、自然な生長制御を行う上で最も大切な要因です。春出荷用のパンジーでは、低温で育苗から生産まで可能なので、矮化剤の使用はほとんど必要ありません

レインシリーズにおいて、質の高い製品を作るには、移植後 1 週間ほどハウスの外か無蓋施設のような風通しのよい、温度が低い場所においておきましょう(秋出荷の場合は遮光なども考慮する)。このように工夫して、できるだけ昼間温度 15-21℃、夜間温度 11-15℃の最適条件を可能な限り整えることもひとつの方法です。パンジーは低温には強く、5℃くらいまで下がっても株にはほとんど影響ありません

栽培のスケジュール

播種から移植(ポット上げ): 5 週(288 穴プラグトレイ)

コンテナサイズ	ポットあたりの株数	移植から開花までの週数
9cm	1	4
10.5cm/11cm	1	5
20cm		
ハンギングバスケット	3-4	7

予想される病気や虫害

虫害: プラグの育苗段階では、ファンガスやショーフライが多くつくので適宜、駆除しましょう。一方、ポット上げ後はアブラムシやスリップス、ハダニ、ホワイトフライなどの駆除が必要です

病気:

立枯病や黒根病、ボトリティス、その他の感染症等に注意しましょう

日照と植調

日なたを好む植物(時間によって日陰になるような条件でも可能)

定植時の草丈

20-25cm

注意点^{*1}: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります

PanAmerican Seed™

PanAmSeed.com

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road
West Chicago, Illinois USA 60185-2698
630 231-1400
Fax: 630 231-3609

PanAmerican Seed Europe BV
Lavendelweg 10
NL-1435 EW Rijsenhout, Holland
+31 (0)297-383038
Fax: +31 (0)297-383036

™ denotes a trademark of and ® denotes a registered trademark of Ball Horticultural Company in the U.S. It may also be registered in other countries.

©2005 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS06097